

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,444	t-CO ₂
①を （温室除 酸効 果ガ ス排 出量 換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		1,444	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 9 年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総 排 出 量	1,444	t-CO ₂	1,430	t-CO ₂	1.0

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 9 年度 目標削減率	
	原単位当りの 排 出 量	0.00599	t-CO ₂ / m ²	0.00593	t-CO ₂ / m ²	1.0

(2) 目標設定の考え方

温室効果ガスを平成27年度より1年間に1%削減しております。
全館LED化、空調のインバータを2015年に実施、2021年にCO2フリー電力の供給を受け
ることとなり、CO2を大幅に削減しております。現実的に実施できる案金が少ないため継続で
毎年1%の削減目標を設定致します。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー 省資源の実践 照明	<ul style="list-style-type: none"> ・外灯ライトアップ照明時間見直し ・風除室照明時間見直し ・照度測定を定期的の実施 ・テナント専有部のLED導入推進 ・外灯看板LED化 	継続
省エネルギー 省資源の実践 空調	<ul style="list-style-type: none"> ・一部空調停止 ・外調機省エネ運転 ・冷水設定温度変更 ・冷暖房/外気取入量管理 ・外調機インバータ化 ・空調フィルターの定期清掃により効率化 	継続
省エネルギー 省資源の実践 昇降機	<ul style="list-style-type: none"> ・ESC一部自動運転 	継続
省エネルギー 省資源の実践 衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェットタオル風量調整 ・暖房便座/洗浄温度調整 ・衛生器具水量調整 	継続
省エネルギー 省資源の実践 廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ・メールやスキャナの活用でペーパーレス化 ・コピー用紙の裏紙利用/両面コピー 	継続
省エネルギー 省資源の実践 OA機器	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン/コピー機等、離席時及び退社時に可能な限り電源をOFFする 	継続
省エネルギー 省資源の実践 電気	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2フリー電力の契約/受給 	継続

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	％

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

・約1,700㎡の壁面緑化、約10,000㎡の緑地にてCO2削減を推進 ・氷蓄熱空調システムを導入し、年間約1,975tのCO2を削減すると共に、電力の標準化に貢献 ・衛生器具に擬音装置を設置 ・店長会議等を通じ、省エネルギー/省資源行動に対する環境教育の実施

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

・タイマー設定や自動点灯の動作状況を確認し、不要点灯を防止する ・日没時間と外灯点灯時間を確認し、無駄な点灯を防止する。
